

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（ 生活環境コース ）

項目	専門授業	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	「人間活動と環境問題」				
講師	環境省・環境カウンセラー 北尾 進				
<p>講義内容</p> <p>【授業の目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人間の様々な活動が環境・自然に影響を与えてきたことを知る。 ② 環境悪化によって人間・人間社会にどのような影響があったかを知る。 ③ 環境問題の解決に向けてどのような手法があるのかを知る。 ④ 環境問題に市民がかかわることの重要性を理解する。 <p>【キーワード】</p> <p>「環境決定論」「環境可能論」「受益圏・受苦圏」「社会的ジレンマ」「生活環境主義」 「世代間倫理」「規制的手法」「経済的手法」「社会的手法」「参加の梯子」</p> <p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人間の活動が引き起こしてきた環境問題とその環境問題により人間が被った被害についてお話しします。 ② 人間が環境をどのようにとらまえ、環境問題解決に向けてどのように考えてきたかをお話しします。 ③ 身近な地域における具体的な環境問題の事例を示し、各班で事例について話し合っています。 どのような課題・問題があるのか？その課題・問題を解決していくためにはどうすべきか？について討議し、班の考え方をまとめて発表していただきます。 <p>【授業の進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 前半は講義を中心に進めます。 ② 後半は各班で討議し、その結果をまとめて発表していただきます。 					
<p>講師よりメッセージ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人の考えをじっくり聴くことによって自分との相違点や共通点を探してください。 ② 「共感」したり、「見直し」したりしながら自分の考えをまとめてください。 ③ 自分の考えを整理して順序立ててお話をするようにしてください。 ④ 環境問題に関心を持ち続け、その深層まで思うように心がけてください。 					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（ 生活環境コース ）

項 目	暮らし環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	薬と健康食品の豆知識				
講 師	神戸学院大学薬学部教授 岡本 正志				
<p>講義内容</p> <p>超高齢化社会を迎えたわが国では、平均寿命ではなく健康寿命の延伸が強く望まれています。病気にならないようにする（一次予防）努力は必要ですが、集団検診や特定健康診査（メタボ健診）などから早く病気を見つけて、正しく治療を行う（二次予防）ことも重要です。そのために、薬を継続的に服用し、また、健康の維持・増進のためにサプリメント（いわゆる健康食品）を摂取する機会も増えるでしょう。この講義では、薬と健康食品の正しい知識と服用、利用法を学びます。講義の到達目標は、以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病予防、健康維持・増進のためのプライマリケアやセルフメディケーションの重要性を説明できる。 2) 薬（医療用医薬品・一般用医薬品）とサプリメントの違いを習得する。 3) 主な養生法（サプリメント、保健機能食品、機能性表示食品など）の意義や問題点を列挙できる。 4) 薬とサプリメントの正しい情報を収集できる。 5) 代表的な生活習慣病の治療薬の成分、作用や副作用を習得する。 6) 薬とサプリメントの併用（服用・摂取）の相互作用や危険性を習得する。 7) 医療の中でのジェネリック医薬品の必要性を説明できる。 					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>薬やサプリメントに関する情報は、インターネット、テレビや雑誌などを介せば、山のようにたくさんあります。その中で、正しい知識を学び、正しく情報を収集する方法を学んで、心身ともに健全な生活を送ることができるように努力しましょう。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	環境総論	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	環境コミュニケーションと私たちの暮らし				
講師	兵庫県立大学環境人間学部教授 糟屋 美千子				
<p>講義内容</p> <p>私たちの暮らしにおいて、「環境コミュニケーション」に関しては情報の受け手であることが多いです。普段、環境コミュニケーションとして意識してはいなくても、そこから影響を受けていろいろな考えを持つようになっていきます。では、どのようなことに気をつけ、どのようなことを考えて情報を受け取ればいいのでしょうか。</p> <p>講義では、まず、環境コミュニケーションとは具体的にどんなもので、どのような目的で行われるのか、なぜそれが大事なのかなど、環境コミュニケーションの内容や意義について理解します。そのうえで、身近にある環境コミュニケーションを例として実際に検討して、読み取るときにどんなことに注意したらいいか、私たちに求められることを考えていきたいと思います。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>「環境コミュニケーション」とは、私たちの環境をよくするためのコミュニケーションのことです。暮らしの中の環境コミュニケーションについて一緒に考えてみましょう。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	暮らし環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	身の回りの化学物質と上手につきあう方法				
講師	神戸女学院大学人間科学部環境バイオサイエンス学科教授 張野宏也				
<p>講義内容</p> <p>我々が育ってきた環境を思い出してください。子供のころは川や海に入って魚を取ったり、山に登り草木や多くの昆虫を採取することができました。一方、冬は寒く火鉢やストーブを焚く臭いで気分が悪くなったり、夏は暑くて、扉を開けばなしで寝なくてはならず、蚊帳を使用したり、蠅取り紙をぶら下げた思い出があります。今はどうでしょうか。化学物質を巧みに利用し、季節を問わず冷暖房装置があるため快適に過ごすことができ、家の中で蠅、蚊を見つけることは稀になりました。しかし、交通機関を利用して遠くにいかなければ自然に親しむことができなくなったような気がいたします。これは、さまざまな化学物質が至るところで使用されたことにより、生活が快適になった半面、自然がなくなった現象です。今後さらに様々な化学物質が多様化されれば、我々の生活はどのような変わっていくのでしょうか。そこで、今後増々増えるであろう化学物質に対応するため、発生源、性質および影響等に関する知識を深めて、うまく付き合っていかなければなりません。本講義では、身の回りに使用されていて問題となったいくつかの化学物質に焦点をあてて、それらが環境にどのような悪影響を与えていたのかを紹介します。そして、環境を守りつつ上手く化学物質を利用していくにはどうすれば良いのかについて考えます。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>環境を守ることの基本は、環境汚染の現状を次世代の方に正確に伝え、今後について考えていただくことです。本講義で得たことを、わかりやすい言葉でご息様、お孫様にお伝えください。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	専門授業	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	「キタオのごみ事件簿 “真相” は？				
講師	環境省・環境カウンセラー 北尾 進				
<p>講義内容</p> <p>【授業の目的】</p> <p>① ごみに関わる事件を通してごみに関心を持つことの大切さを知る。</p> <p>② 「事件」の背景についても考えることの大切さを理解する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>「ラブキャナル事件」「豊島事件」「有害廃棄物」「ニッソー事件」「ソニーショック」 「ごみ偽装」「ごみ屋敷」</p> <p>【授業の内容】</p> <p>① 内外のごみに関わる具体的な事件の概要をお話しします。</p> <p>② 事件の原因、背景について考えて行きます。</p> <p>【授業の進め方】</p> <p>① 講義を基本に進めます。</p> <p>② いくつかの事件について、その原因や背景について近くの座席の人たちで話し合っ て受講生の皆さんに考えていただきます。</p> <p>③ 話し合いの中で見つかった原因・背景を出し合ってください。</p> <p>④ そしてこれからこのような事件が起きないようにするために必要なことを考えま す。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>毎日多くの「事件」が報道されています。気になった事件についてその原因は何か、背 景にはどのようなことがあるのかなどなど表面に出ていないことにまで思いを巡らせる ようにしていただければと思います。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	生活環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	里山の保全に市民が果たす役割				
講師	兵庫県立南但馬自然学校校長（兵庫県立大学名誉教授）服部 保				
<p>講義内容</p> <p>昭和30年代まで燃料供給の場として利用されてきた里山林は照葉樹林という自然林（現在太山寺や再度山に残存）を破壊して作られたものです。その里山林も燃料革命以降放置されて50年以上経過しました。シルバーカレッジ周辺に広がっている里山林も実は里山林ではなく、里山放置林となってしまいました。照葉樹林、里山林、里山放置林の違いはどこにあるのでしょうか。また里山放置林を放置し続けると、どのような樹林になるのでしょうか。里山放置林を子供達の体験学習の場や市民の生涯学習の場として、あるいは減災効果を上げるよう整備しなくても良いのでしょうか。これらの問題についてお答えします。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>子供達の体験学習・自然学習のために身近な里山放置林を整備することはたいへん重要です。里山放置林の整備を進める前に、まず里山林を学びましょう。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項 目	海と魚の今	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	自然環境「お魚を愉しむ」				
講 師	お魚かたりべ 山寄清張				
<p>講義内容</p> <p>近年 大きく様変わりした 海と 海を取り巻く環境や食・食文化の変化を知らながら海に対峙する人々の新たな取り組みや 魚を扱うプロの技術を紹介します。</p> <p>魚の知識 （魚の旬 生態 流通） 魚の目利き（扱ひ方 得する買い方） 海の変化 （現在と過去の違い） 漁業者の変化（海の変化に合わせる技） 海の今 （現況と今後の対策）</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>私たちの生活に大きく影響する海の変化について 現状を正しく理解し 楽しく 美味しい 日本人に欠かせない 魚に 興味を持っていただきたいと思います</p>					

シルバーカレッジ 講義概要 (シラバス) (生活環境コース)

項目	生活環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	イカナゴと海の環境				
講師	須磨海岸生物調査研究所代表理事 佐名川 洋之				
<p>講義内容</p> <p>瀬戸内海の漁獲量(単位面積当り)は世界の主要な閉鎖性海域の中でも群を抜いてトップであることはあまり知られていません。しかし獲れる魚は年々減っており、漁業は衰退傾向にあります。きれいになったはずの海でいったい何が起きているのでしょうか?</p> <p>私たちのくらしと海の生物の関係について、以下のトピックスを中心に最新の環境科学情報を交え、海と生きものについての今日的な課題を学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○瀬戸内海の環境 ○瀬戸内の生きもの ○なぜ魚は減っているのか ○漁業が衰退しているのは日本だけ ○イカナゴの未来 ○こどもの脳の発達と NDD(自然欠乏障害) 					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>持続的な資源である魚介類の日本の自給率は今や 50%にまで落ち込んでいますが、危機感があまりないのは、私たちの無関心がその要因です。消費者運動によって漁場環境が改善した欧米の例など、人のくらしと海のつながりを見直す視点を提示しながら、次世代を担う子どもたちに何を伝えていくべきかを考える機会にしたいと思います。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	自然環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	自然の保全と再生				
講師	NPO 法人こども環境活動支援協会監事 戸田耿介				
<p>講義内容</p> <p>大航海時代以降、特に19世紀からの科学技術文明は自然環境に多大な影響を及ぼしてきました。日本では1950年代から始まった高度経済成長により海・山・川・里の自然は一変したと言えるでしょう。望まれる自然環境は、時代によって変化していきます。自然を保全するとは、またその再生とはどう云うことなのか事例を紹介しながら、私たちが関われることについて考えてみます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然環境の保護と保全はどう違うのか。 2. 生物多様性の重要性と社会の動き。 3. 生物多様性国家戦略とは、その概要と課題。 4. 外来生物への対応 5. 自然再生事業の背景と事例・課題 <p>(260字)</p> <p>.</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>しあわせの村一帯の動植物を調べ生物多様性をアップしようとする活動が、シルバーカレッジのOB・OGや在校生の有志で進められています。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	自然環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	神戸の絶滅危惧種とその保全				
講師	兵庫・水辺ネットワーク 大嶋 範行				
<p>講義内容</p> <p>神戸市には 7,662 種の動植物（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水産魚類、昆虫類、汽水・淡水産甲殻類、汽水・陸産貝類及び維管束植物）が暮らしています。これは 150 万人以上が住む大都市としては、非常に高い数値となっており、その理由は海あり山ありの多種多様な自然環境に恵まれた神戸ならではの特徴と言えます。</p> <p>しかし、この 7,662 種のうちの実に 11%にあたる 871 種は絶滅が危惧される生きものとして、神戸版レッドデータ 2015 に記載されています。</p> <p>今回の講義では、生物多様性が高いとされている里地・里山の動植物を中心に話を進めます。</p> <p>①里地・里山とは ②里地・里山は動植物の宝庫 ③消えゆく里地・里山の動植物 ④里地・里山での保全活動 ⑤今後私たちにできること</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>里地・里山の豊かな自然を守るために、シルバー世代が中心となって活動を展開しながら、その成果を若い世代に継承していくような仕組みづくりが望まれます。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	自然環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	自然環境「六甲山ヘルスツーリズム」				
講師	神戸山手大学現代社会学部教授 西村 典芳				
<p>講義内容</p> <p>我が国において医療費の高騰が社会問題化する中、予防策としての健康サービスの重要性がクローズアップされている。経済産業省では、「健康サービス創造研究会報告書」において、健康サービスのあり方について具体的なモデルを提示しており、その一例として地域資源を活用した健康プログラムとしてヘルスツーリズムを取り上げている。ヘルスツーリズムは、観光サービスと健康サービスの両側面を有するが、本講座では、ウォーキングによる六甲山の活用に着目し、我が国におけるヘルスツーリズムに求められる要素及び今後の施策の方向性について学ぶ。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>人生 100 年時代を迎えて、いかに健康でいることの重要性を考える機会になればと思います。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項 目	自然環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	自然環境「六甲山を活用する会の活動」				
講 師	六甲山を活用する会代表幹事 堂馬 英二				
<p>講義内容</p> <p>「六甲山を活用する会」が15年以上にわたって六甲山上で展開している試行錯誤の実態を紹介します。地域社会への貢献活動という視点から、受講者ご自身がセカンドライフを設計する際の参考になれば幸いです。</p> <p>（1）紹介する要点は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民活動を立ち上げたいきさつ 2. 15年の活動～地域を知ること、地域環境を整備することなど 3. 六甲山への関わりから得た教訓や成果 <p>（2）一緒に考えましょう（意見交換してみたい項目例）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ボランティア活動」って何だろう？ 2. 「都市山・六甲山」は生かせるか？ 					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>シルバーカレッジの在校生や卒業生の皆さんにはお世話になっております。会員になって参画され、環境整備活動に参加されるなど、活動に寄与していただいで感謝しています。</p>					

シルバーカレッジ シラバス

項目	生活環境コース	対象学年	2年生	場所	学習室3・4、調理実習室
テーマ	「エコクッキング」ステップアップ編				
講師	日本野菜ソムリエ協会認定野菜ソムリエ上級プロ 川上マユミ				
<p>講義内容</p> <p>座学では</p> <p>1年生で学んだ「エコクッキング」を復習したうえで食品ロス、特に残飯の問題について学習します。</p> <p>2年次のテーマを新たに設定し、1年時の課題に必須食材などをプラスした課題でメニュー作りをし、カラダにもやさしいメニュー作りを目指します。</p> <p>実習では</p> <p>グループで作ったメニューを調理実習し試食をします。</p> <p>グループごとにゴミの計量をし、グループで話し合った取り組みが実際にできたかどうかを振り返ります。消費期限、賞味期限の違いなども学習します。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>必須食材を用い1年生の時より課題設定を高くし、エコクッキングに取り組みます。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	災害	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	震災と障害者				
講師	兵庫県視覚障害者協会理事 嘉田 眞典				
講義内容					
1、災害について 阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震（過去） 南海トラフ巨大地震（今後）					
2、災害時に障害者が困ること 緊急時、避難所 聞こえない人が困ること					
3、聴覚障害について 情報障害、コミュニケーション障害 聞こえない人、 聞こえにくい人など様々 聞こえないために誤解されることもある。					
4、聞こえない人に出会ったら コミュニケーション手段 （手話・身振り・筆談・口話など） 聞こえないことへの理解、配慮について					
講師よりメッセージ 聞こえない障害を理解し、身近に聞こえない人がいたら音声の情報を知らせるなどの支援ができるとよいですね。音声以外のコミュニケーション方法を少しずつ学んでください。					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（ 生活環境コース ）

項目	専門授業	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	「災害とごみ・トイレ問題」				
講師	環境省・環境カウンセラー 北尾 進				
<p>講義内容</p> <p>【授業の目的】</p> <p>① 災害が起きれば必ず膨大なごみとトイレの問題が発生することを知る。</p> <p>② 「トイレもライフライン」だということを理解する。</p> <p>③ 地域にある危険・不安な要素に関心を持ち、それを減らすことの大切さを理解する。</p> <p>【キーワード】</p> <p>「災害廃棄物」「放射性廃棄物」「広域処理」「ライフライン」「震災とまちづくり」</p> <p>【授業の内容】</p> <p>① 阪神淡路大震災時の「災害廃棄物」や「仮設トイレ」業務の体験を踏まえてお話しします。</p> <p>② どのように災害廃棄物を処理したのか、避難所でのトイレはどのような状況だったのかなどお話しします。</p> <p>③ 東日本大震災では、原発事故による放射性廃棄物が問題になっています。これらについての考え方をお話しします。</p> <p>④ 災害廃棄物対策を考えるうえで何が重要なのかをお話しします。</p> <p>【授業の進め方】</p> <p>① 映像を示しながらお話しします。</p> <p>② 受講生のみなさんの震災体験もお聞きしながら授業を進めます。</p> <p>③ 受講生の皆さんがお住まいの地域にはどのような「危険」があるのかなどについてもお聞きします。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>① 災害を防ぐことは難しいですが、被害を少なくすることはできます。</p> <p>② そのためにはそれぞれの家庭での備えとともに地域での備えも大切です。</p> <p>③ そしてご近所でのコミュニティづくりも大切です。「地域力」がモノをいいます。</p> <p>④ もう一度家庭や地域の現状を「これでいいのか？」と考えてみましょう。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	生活環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	希望へ～人は人によってのみ救うことができる～				
講師	NPO 法人阪神淡路大震災よろず相談室理事長 牧 秀一				
講義内容					
<p>災害は日本のどこにでもおこりえます。</p> <p>23年前の阪神淡路大震災、7年前の東北大震災、2年前の熊本大震災とたて続けに発生しています。</p> <p>家を失い思い出の品を失い家族を失った人たちが、その後、どのような生活を余儀なくされていくのでしょうか。</p> <p>この講義は23年間被災地ボランティアとして、私が経験した事や思うことなどを中心に話を進めていきます。</p> <p>被災した人が再び人生をやり直すことへの困難は、想像するに余りあります。</p> <p>「復興」を人が生きることを抜きにして考えられてはいないか、私たちにできる支援はあるのだろうか？</p> <p>私が拘わった人たちの姿を中心に考えていきたいと思っています。</p>					
講師よりメッセージ					
<p>生徒の皆さんは、ひょっとすると人生の先輩です。いろんな意見や考えを私にぶつけてきて頂きたいと願っています。そこから支援の在り方を考える事が出来れば最高です！</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	生活環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	総合学習「チームリサーチ」				
講師	ライフデザイン研究所 FLAP 主宰 岩木啓子				
<p>講義内容</p> <p>興味関心のあるテーマに分かれ、チームでの調査研究を行います。3年生のグループ学習に向けてのウォーミングアップという位置づけで、以下の要素を体験する場とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて視点を掘り下げ、研究計画を立ててフィールドワークを行う ・チームの仲間と力を合わせて取り組む ・わかりやすくプレゼンテーションする <p>全体の流れは以下の通りです。</p> <p>①導入：市民参画のまちづくりや調査活動の価値や必要性について講義。その後、グループごとにテーマへの視点を深める意見交換をし、調査計画を立てます。</p> <p>②各チームでフィールドワーク：調査計画に従ってチームごとにフィールドワークします。</p> <p>③リサーチのまとめ：フィールドワークの結果をシートにまとめます。</p> <p>④発表の準備：プレゼンテーションのコツについて講義。その後、チームごとにプレゼン用のポスター制作、口頭発表の準備等を行います。</p> <p>⑤発表会：パーティションに掲示したポスターを使ってチームごとにプレゼン。グループ学習のサポーターから講評をいただきます。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>3年生のグループワークが骨太で価値あるものになるために、そのエッセンスを意欲的に体験してみてください。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項目	生活環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	もっと神戸：神戸の都心の未来は？				
講師	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授 加藤 恵正				
<p>講義内容</p> <p>2017年11月、神戸市は都心再開発の核ともなるJR三宮駅南東のバスターミナルビル建設計画を発表しました。高層ツインタワーとなるターミナルビルには、西日本最大級の中・長距離バスターミナル、文化・商業施設の他、宿泊居住機能も有しています。2015年9月に策定された「三宮地区の『再整備基本構想』「神戸の都心の未来の姿 [将来ビジョン]」は、動き始めました。公民学連携による社会実験なども既に実施されており、人と公共交通優先を優先する三宮クロススクエアを核とする「えき・まち空間基本計画」も始動したようです。</p> <p>本講義では、こうして動き始めた三宮を中心とする都心整備について、まず、阪神淡路大震災のダメージとその後の経緯について概略したうえで、次世代の神戸都心の機能についてイノベーション拠点という視点から整理し、これを加速する上での留意点を考えようというものです。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>神戸市のホームページに掲載されている三宮再開発の状況について、あらかじめ目を通していただきたいと思います。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項 目	生活環境	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	ディベート大会				
講 師	ライフデザイン研究所 FLAP 主宰 岩木啓子				
<p>講義内容</p> <p>提示されたテーマについて、「肯定側」と「否定側」に分かれ、議論を行います。2テーマについて行いますが、各テーマ「肯定側」4名、「否定側」4名の選抜チームを作ります。事前に資料を集め、論理構築の準備をして当日に臨みます。</p> <p>当日は、午前、午後、各1テーマずつについての議論を行い、選抜チーム以外の方が判定員になって勝敗を決めます。</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>事実を柔軟に多様な角度から吟味する力、主張を論理的に組み立てる力を身につけて下さい。</p>					

シルバーカレッジ 講義概要（シラバス）（生活環境コース）

項 目	暮らし環境概要	対象学年	2年	場所	学習室3・4
テーマ	暮らし環境「考えましょう、実践しましょう！人生整理術」				
講 師	家事マイスター® 梶野智絵				
<p>講義内容</p> <p>一番私たちの身近を取り巻いているのが、「日々の暮らし」という自宅での環境です。自宅には、人生の足跡が数え切れないほどのモノとして残されています。それは、生活用品や雑貨・思い出のモノだったり、書類・本やweb関連のものだったり…その環境の中での暮らしが、安心・安全であるかどうか…見直しの方法をお伝えしています。</p> <p>人生100年時代、残りの人生を「老い上手な暮らし」にするために、身体と頭がお元気な今、取り掛かれるように具体的な提案をしています。残すモノの選び方・処分の方法・配置の仕方・ID/PWの管理の仕方…等々</p>					
<p>講師よりメッセージ</p> <p>シニアのお悩みでダントツなのが、身の回りの整理です。整理する方法・カテゴリーの決め方・要不要の判断などを学んで、実践して「老い上手」な人生を楽しんで下さい。</p>					